

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	テオクリトス 第一歌「ティルシス またはダプニスの死」
Author(s)	八木橋, 正雄
Citation	プロピレア , 27 : 143 - 133
Issue Date	2021-12-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00051914
Right	Copyright (c) 2021 日本ギリシア語ギリシア文学会
Relation	



テオクリトス

第一歌「ティルシス またはダプニスの死」

八木橋 正雄 訳

山羊飼

羊飼いさん、あなたの歌は、心地良い、
岩から高みから沈み下り響きあうこの水の音よりも、
もしムーサイさまたちが、羊を連れていくなら、
あなたは仔羊を褒美にいただこう、
ムーサイさまたちが仔羊を選ばなら、
あなたは羊を連れていこう。

一〇

ティルシス

あなたに、ニュンフたちの名にかけて、山羊飼いさん、
お願いだ、丘のところのギョリュウのところで、
葦笛イサフエを奏でてくれないか、
わたしは山羊を草を食ませに連れていく。

山羊飼

山羊飼いさん、この松は、泉に近き松は、
なにかしら快いさざめきを歌っているけれど
あなたもまた葦笛イサフエで、妙なる歌を奏でている。
パーンの次に、
パーン神の次の二位の位を勝ちうるだろうその歌で。
パーンが一位の角の生えた牡山羊を勝ち得るときは、
あなたは牡山羊を勝ち得、
パーンが牡山羊を勝ち得るときは、
あなたは仔山羊を与えられよう、
でも、牝山羊の乳の搾りたての肉は美味。

五

昼ヒルに葦笛イサフエを奏でることなど。

一五

おそらくパーン神が狩りめぐりのさなか、
鼻のあたりに怒気の荒い毒気のただよう神が、
疲れ休みをしている頃に。

しかしティルス、あなたはダフニスの苦しみを識つて
おられる、だから、

もそつと牧歌のムーサ神のところへ寄つて、

二〇

此処へ来て、座りましょう、この楡の木の下で、
ブリアポスの像の前、クリニアデスの像の前に、
そこには檜の木と牧歌の席があります。

もしあなたが、リビアから来たクロミスと競つて

歌つたときのように、

また歌つてくれたなら、双子の母山羊の乳を

日に三度搾らせてあげる、

二五

そして、香高い蜜蠟で仕上げ塗り上げた壺、

両柄で出来立てのもの、

まだ削りたての薫りがし、キズタが縁取り、

黄金色の花飾りが絡み合ったキズタ、葉にはつるが

伸び、サフランの実が色づいている。

三〇

飾りのなかには、ひとりの女人が神々の佳作と思しく、
衣と頭飾りを装い良く描かれ、その近くには

男達が美しく髪を梳かして

お互いに口論し合っているけれど、

でもそんなことは女の心には何もないようで、

三五

こちらの男に微笑み、あちらの男にも微笑んでいる。

男たちは恋こがれて眼を大きくあげ、
空しく寝れ果てている。次いで、尖った岩に、
投げ網をたぐいよせている、

年を重ねてなおい漲ると思しき老漁夫。

四〇

あなたはこの漁をしている老人の四股とその頸部に

血脈がはち切れるばかりのさまを見る、

髪は白くとも力は若い時に比肩する。

潮焼けした老人のほど近くに、

味わい時のたわわに実った葡萄の木、

四五

そこに小柄な若者が石垣に座つて見張りをしているが、

その二手から二匹の狐が忍び寄り、

一匹は葡萄畑の隙間を抜けてうまそうなご馳走を

荒らそうとしており、もう一匹は奸計をもって、

若者の頭陀袋をねらっている。

狐は見逃さないという。

五〇

しかし若者は昼ご飯を置きっぱなし。

若者はコウロギ取りの籠をツルボランとイグサの穂で、

一生懸命綺麗に編んで、頭陀袋も葡萄の樹もすっかり

忘れ果てている。壺のめぐりのそこそこに

しなやかなアカンサスが拡がり、

五五

その素晴らしい山羊飼いの世界に、あなたの心を

動かずにはおかないだろう、

私はカリユドンの船乗りはこの壺の値に、

山羊と、白い乳の大きなチーズを支払った。

壺には唇もつけていないし、使ったためしもない。

もしあなたがわたしの願いの歌を

歌ってくださるのなら、

友よ、私はあなたにこの壺を差し上げよう。

さあ、友よ、忘却のハデスまで、この歌を持ち去ってしまうのではないでしょうね。

六〇

アナポスのおおいなる流れのところにも、

エトナの高きところにも、

アキスの清らかな流れにも、おられなかった。

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、

はじめましょう、牧歌を。

七〇

ジャツカル達も咽び声をあげた、オオカミ達も啼いた、森の奥の大きなオオカミ達も、彼を悼んで啼いた。

ティルシス

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、

はじめましょう、牧歌を。

これなるティルシス、エトナのティルシス、

ティルシスの歌は心地よい。

六五

何処へお越しに、何処へお越しあそばせられたの

ですか、ニンフ達、ダブニスがなくなつたときに。

ペネイオス川の美しい谷か、ピンドスにいらして

いたのですか、

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、
はじめましょう、牧歌を。

ダブニスの足元に、たくさんの牛達が、

たくさんのお牛達と、たくさんのお牛達と

仔牛達とが、嘆き悲しんでいた。

七五

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、

はじめましょう、牧歌を。

最初にヘルメス神が山から来りて云つた、

「ダブニス、誰があなたをこんなにも苦しめたのか、
誰が、おお友よ、そんなにもあなたを
棄れさせたのか」

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、
はじめましょう、牧歌を。

牛飼い達も、羊飼い達も、山羊飼い達も来て、

皆がどうしてダブニスが苦しんでいるかと訊いた。

プリアポスも来て訊いた。

「気の毒なダブニス、なぜに苦しまれておられるのか、

あの若い娘は、森森をめぐって、なべての泉へ足を

運んで」

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、

はじめましょう、牧歌を。

探しましょう。見つかるよ。あなたは恋に思い悩み、

ときに激しく、不器用に、あなたは牛飼いと

呼ばれていたのに、今は、山羊飼いにも似て、

山羊飼いは、

目のまえで山羊達が番うのを見て、
自分が牡山羊でないのを悲しむ。

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、
はじめましょう、牧歌を。

あなたは、若い娘たちが楽しそうに

踊っているのを見て、

乙女達と踊れないのを悲しんで棄れてゆく」

牛飼いは、なにも応えてはくれない、定めのままに

行き着くところまで、牛飼いだブニスの辛い愛は

辿り着く。

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、

はじめましょう、牧歌を。

そうこうしているうちに、快き微笑みを浮かべた

キュプリス神が来て、

微笑みながらも、表にはいらいらした心で、云う。

「あなたは、ダブニス、愛神を屈服させたと

八五

九五

九〇

自慢していたのに、

自らが恐ろしい愛神にうちのめされたのですね」

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、

はじめましょう、牧歌を。

そこでキュプリス神にダブニス は応えて、
一〇〇

「怖ろしいキュプリス、忌むべきキュプリス、
死すべき者達が忌み嫌うキュプリス、

太陽は常に、私たちのために沈んでしまうと、

あなたは仰せになられたのではないか。

ダブニスもまた冥府へ沈み、

愛神の恐ろしき苦悩となるでしょう」

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、

はじめましょう、牧歌を。

「キュプリス神と牛飼いの話はさておき、イダの山へ、
一〇五

そこではアンキセスの許へ赴かれよ。

そこには檜やカヤツリグサが茂り、ミツバチが

巢の周りで快く羽ばたいている」

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、
はじめましょう、牧歌を。

「アドニス、山々の主、美しい牝牛を飼っている、
ウサギを狩り、いろいろな獣を狩っている」
一一〇

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、
はじめましょう、牧歌を。

「あなたは再びディオメデスに立ち向かい、

あなたは云う、牛飼いだブニスは勝者だ、

さあいざ我と戦え」

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、

はじめましょう、牧歌を。

「おお、狼よ、おお、ジャツカルよ、
一一五

おお、山々の洞穴に住む熊達よ、

さようなら、牛飼いだブニスは、この森から去る、

もうあなた達とはお別れだ。茂みと茂みよさらば、

林と林よさらば。

アレトウーサの泉よさらば、テウプリスから流れ出る
美しい水を流す川たちよ、さようなら」

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、
はじめましょう、牧歌を。

「私ダブニスには、ここで牛飼いをしていました、一二〇
牡牛や仔牛に水を飲ませに連れていました」

はじめましょう、いとしきムーサ神たち、
はじめましょう、牧歌を。

「おお、パーン神よ、パーン神よ、

リュカイオンの連山におられても、
マイナロンの大いなる山におられても、
シチリアまでいらしてください、

ヘリケの頂を後にして、
幸いなる神々も驚嘆する

リュカオンの孫の高き碑を後にして」

一二五

終えてください、ムーサイ神たち、
さあ、牧歌を終えてください。

「来てください、おお神々よ、そしてお持ちください、
この美しい葦笛シコロクサを、蜜蠟の香りがし、
蠟でつなぎ、吹き口のところを巻いてある。
私はもう、愛神によつて、

冥府へ引かれていくのですから」

一三〇

終えてください、ムーサイ神たち、
さあ、牧歌を終えてください。

「今は、茂みにスマレが咲きみだれ、
アカンサスも茂るがいい。

美しい水仙がネズの木ネズの群生地ネズに咲くがいい。
ダブニスダブニスが亡くなったから、
あらゆるものが入れ替わつて、

一三五

松の木はセイヨウナシの実をつけ、
山から降りてきて鹿が犬を引き裂き、
山の鼻が小夜鳴き鳥と歌を競い合う」

終えてください、ムーサイ神たち、

さあ、牧歌を終えてください。

ダブニスはそのようにのたまひ、終えた。

アフロディテ(ケュプリス 神のこと)が、抱き上げようとした。

しかし、運命の神々により、

頼みの糸はすべて切れ、

ダブニスは、流れにのまれていった。

ムーサイ神たちに愛され、ニュンフ達に

いつくしまれたダブニスは、渦流に洗われて。

終えてください、ムーサイ神たち、

さあ、牧歌を終えてください。

「私はムーサイ神に香油を捧げるべく、乳を搾ったら、

そしてあなたに、山羊を差し上げよう、そして壺も。

おお、さようなら、ムーサイ神よ、

さようなら、さようなら。

また、私は、あなたに牧歌を、

もっと心地よく、歌いましょう」

山羊飼

美しい唇よ、テイルシス、

蜂蜜に溢れ、蜂巢に満つるように。

食べられかし、アイギリアの甘い無花果を、

あなたの歌は、蟬の歌よりも美しいのだから。

この壺をあなたに、

ご覧ください、友よ、よき香りがします。

季節ホトの女神テアたちの泉に浸けたと思われるでしょう。

一五〇

来れかし、キッサイタ、あなたはこの雌山羊の乳を

搾り給え。

でも雌山羊達、飛び回るではないぞ、

牡山羊達がお前たちに飛び掛かるから。

【ローマ神話辞書】

THEOKRITOU THYRSIS I OIDI

THYRSIS

Ady ti to psyihyrisma kai a pitys, aipole,tena,

A poti tais pagaisi, melisdetai, ady de kai ty

Syrises, meta Pana to deyteron athlon apotisei.

Ai ka tenos helei keraon tragon, aiga ty lapsiei,

Ai ka d'aiga labei tenos geras, es te katarrei

A chimaros, chimaro de kalon kreas, heste k'amelkseis.

AIPOLOS

Hadion, o poimen, to teon melos he to karaches

Ten'apo tas petras kataleibetai hypsothen hydor.

Ai ka tai Moisai tan oiida doron agontai,

Arna ty saktian lapse geras, ai de k'areske

Tenais arna labein, ty de tan oin hysteron akse.

THYRSIS

Les poti tan Nymphan, leis, aipole, teide kathiksas,

Os to katantes toyto geolophon ai te myrikai,

Syrisden? Tas d'aigas egon en toide noumeuso.

AIPOLOS

Ou themis, o poimen, to mesambrinon ou themis ammin 15

Syrisden. Ton Pana dedoikames: e gar ap'agras

Tanika kekmakos ampauetai, esti de pikros,

Kai oi aei drimeia chola poti rhini kathetai.

Alla ty gar de, Thyrsi, ta Daphnidos alge'aeides

Kai tas boukolikas epi to pleon hikeo moisas,

Deur'hypo tan ptelean hesdometha to te Priepo

Kai tan kranidon katenantion, haiper o thokos

Tenos o poimenikos kai tai dryes: Ai de k'aeises

Os hoka ton Libyathe poti Chromin aisas erisdon,

Aiga te toi doso didymatokon es tris amelksai,

A dy echois' eriphos potamelgetai es dyo pellas,

Kai bathy kissy'bion keklysmenon hadei keroi,

Amphoes, neoteuches, eti glyphanioi potosdon.

To poti men cheile maryetai hypsothi kissos,

Kissos helichrysoi kekonimeno: a de kat auton

Karpo heliks heileitai agallomena krokoenti.

Entoshen de gyna, ti theon daidalma, tetykrai,

Asketa peplo te kai ampyki: par de oi andres

Kalon ethreizantes amoibadis allothen allos

Neikeious'epeessi, ta d'ou phrenos haptetai autas:	35	Aipolikon thaema, teras ke ty thymon atuksai.
All' hoka men tenon potiderketai andra gelaisa,		To men ego porthmei Kalydniioi aiga tedoka
Alloka d' au poti ton rhiptei noon, oi d'yp'erotos		Onon kai typ'ocnta megan leukoio galaktos,
Detha kyloidiontes etosia mochhizoni.		Oude ti po poti cheilos emon thigen, all'eti keitai
Tois de meta gripeus te geron petra te tetyk'tai		Achranton. Toi kai ty mala prophron areasiman
Lep'ras, eph'iai speudon mega diktuon es bolon helkei	40	Ai ka moi ty, philos, ton ephimeron hymnon aeiseis.
O presbys, kannonti to karteron andri eoikos.		Kouti ty kertomeo. Potag'ogathe, tan gar aoidan
Phaies ken gyion nin hoson sthenos ellopleuein,		Ou ti pai eis Aidan ge ton eklelathonta phylakseis.
hode oi oidékanti kat'auचना pantothen ines		THYRSIS
kai polioi per eonti, to de sthenos aksion habas.		Archete boukolikas, Moissai philai, apchet'aoidas.
Turthon d'hosson apothem alirruoio gerontos	45	Thyrsis hodi oks Aitnas, kai Thyrsidos adea phona.
Pymnais staphylaisi kalon bebrithen aloa,		Pe pok'ar'esth', hoka Daphnis etaketo, pe poka, Nymphai?
Tan oligos tis koros eph'ainasiasisi phylassei		H kata Peneio kala tempea, e kata Pindo?
Emenos amph' de dy'alopek'es, a men an orxos		Ou gar dh potamoio megan rhoon eicher' Anapo,
Phoitei sinomena tan troksimon, a d'epi perai		oud' Aitnas skopian, oud' Akidos hieron hydor.
Panta dolon teukoisa to paidion ou prin anesein	50	Archete boukolikas, Moissai philai, apchet'aoidas.
Phati prin e akratiston epi kseroisi kathiksei.		Tenon man thoes, tenon lykoi orysanto,
Autar hog'antherikoisi kalan plekei akridotheran		Tenon chok drymoio leon eklause thanonta.
Schoinoi epharmosdon, meletai de oi oute ti peras		Archete boukolikas, Moissai philai, apchet'aoidas.
Oute phytion tossenon hoson peri plegmati gathei.		Pollai oi par possi boes, polloi de te tauroi,
Pantai d'amphi depas peripeptatai hygros akanthos,	55	Pollai de damalai kai porties odyranto.

Kai potamoi toi cheite kalon kata Thyridos hydor. Archete boukolikas, Moissai, palin apchet' aoidas.		Ethel' anorthosai, ta ge man lina panta leloupei Ek Moiran, cho Daphnis eba rhoon. Ekluse dina	140
Daphnis egon hode tenos o tas boas hode nomeuon, Daphnis o tos tauros kai portias hode potisdon.	120	Ton Moissais philon andra, ton ou Nymphaisin apechthe. Legete boukolikas, Moissai, ite leget' aoidas.	
Archete boukolikas, Moissai, palin apchet' aoidas. O Pan Pan, eir' essi kat' orea makra Lycaio, Eite ty g'amphipoleis mega Mainalon, enth epi nason		Kai ty didoi tan aiga to te skyphos, os ken amelksas Speiso tais Moissais. O chairete pollaki, Moissai, Chairer', ego d'ummin kai es hysteron hadion aiso.	145
Tan Siketan, Helikas de lipe rhion aipy te sama	125	AIPOLOS	
Teno Lykaonidao, to kai makareassin age-ton. Legete boukolikas, Moissai, ite leget' aoidas.		Pleres toi melitos to kalon stoma, Thyrsi, genoito, Pleres de schadonon, kai ap'Agilio ischada trogois	
Enthonaks, kai tande phereu paktoto melpnoun Ek kero sryrigga kalon peri cheilos heliktan, E gar egon hyp'Erotos es Haidan helkomai ede.	130	Hadeian, tettigos epei tyga pherteron aideis. Enide toi to depas, thasai, philos, os kalon osdei. Horan peplysthai nin epi kranaisi dokeseis.	150
Legete boukolikas, Moissai, ite leget' aoidas. Nyn ia men phoreoitē batoi, phoreoitē d' akanthai, a de kala narkissos ep'arkouthoisi komasai,		Hodkithi, Kissaiha, ty dnamelge nin. Ai de chinairai, Ou me skirtaseite, me o tragos ummin anastei.	
panta d' analla genoito, kai a pitus ochnas enelkai, Daphnis epei thnaskēi, kai tas kynas holaphos helkoi, Keks oreon toi skopes aedosi garysainto."	135	(Text from Hunter Richard/Theocritus A SELECTION IDYLLS-Cambridge 1999)(Cambridge U.P.)	
Legete boukolikas, Moissai, ite leget' aoidas. Cho men toss'eipon apepausato, ton d'Aphrodita			